

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分野	看護学分野
学籍番号		院生氏名	梁原 裕恵
通学キャンパス	東京赤坂キャンパス		
論文題目	血液透析業務における看護師の困難感評価尺度の開発		
審査結果(枠で囲む)	合格		不合格
<p>1 研究概要</p> <p>研究の目的 血液透析室看護師の業務上の困難感を評価するための尺度を開発することである。</p> <p>研究の方法 用語の操作的定義として、「業務困難感」とは、体外循環の対症療法を日常的に看護するうえで、患者とのコミュニケーションや、患者の生活に踏み込んだ問題を解決しがたいと感じる看護師の心情とした。</p> <p>調査1は血液透析室看護師の困難感の特徴を明らかにすることを目的とし、血液透析 25 施設で勤務する看護師 120 人を対象として、2019 年に自記式調査の内容分析を行った。本研究は、本学倫理審査施設委員会の承認を得て実施した(承認番号 19-1g-41)。分析方法はデータを 1 文脈 1 単位とし、看護師の困難な事象に焦点を当て分類し、帰納的アプローチにより抽象化した。結果、血液透析業務における看護師の困難感には 129 文脈 6 カテゴリー(【患者対応】【医療事故】【穿刺の重圧】【業務負担】【役割の葛藤】【透析の特殊な状況への思い】)を抽出した。これらは、看護師のストレスやバーンアウトに関連する要因であると推察された。この結果を血液透析看護師経験のある研究者らと文献をもとに業務困難感評価尺度の原案作成をした。調査2は、31 施設の看護師 469 人を対象として、2021 年に実施した。調査内容は属性、血液透析室看護師の業務困難感評価尺度の原案、仕事ストレス測定尺度(NJSS)、バーンアウト尺度(MBI-GS)であった。本研究は本学倫理審査施設委員会の承認を得て実施した(承認番号 20-1g-110-3)。結果の分析は、表面妥当性、標本妥当性、構成概念妥当性(探索的因子分析、確証的因子分析)の検証は適切に行われていた。第 1 因子(持続する緊張)、第 2 因子(患者対応に関する困難)、第 3 因子(日常生活指導にともなう役割の葛藤)の内的整合性は高い値を示した。テスト再テストの相関係数、外的基準尺度 NJSS との相関係数、弁別妥当性 MBI-GS との相関係数に関しては疲弊感、シニシズム、職務効力感の相関であり、尺度の信頼性・妥当性は検証された。</p> <p>2 知見の新規性 本研究は、透析患者という複雑な心身の問題を有する対象へのケアに対する看護師の職務上の困難感に着目した。心情レベルから離職へ繋がる研究は見当たらず、本尺度により血液透析室看護師の業務困難感という心情を測定し、具体的な精神的サポートや現職教育に役立てることができ、離職を未然に防ぐ人材管理の一助として活用できる可能性があるところに新規性がある。しかも、精選された尺度は 15 項目から成るため、簡便な質問紙として活用ができる。</p> <p>3 審査過程 2 回の審査を行った。論旨の矛盾点、図表の提示、さらに、研究としての新規性・独創性・研究結果の社会への貢献についてわかるように加筆・修正を求めた。短時間での修正要求に真摯な態度で対応した。その後、審査員全員で修正されたことを確認した。口頭試問においては自分の考えをはっきり述べ、応答した。以上の結果から、審査員全員は本研究(本論文)に博士(看護学)の学位を授与するに価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主 査	遠藤 英子	
	副 査	栗田 康生	
	副 査	坂木 晴世	